

「認知症に対する理解について」アンケートの実施報告

6月16日（金）から30日（金）までの間、「認知症に対する理解について」のアンケートを実施いたしました。

結果、827名の方からご回答をいただきました。アンケートにご協力いただきましたe-モニターの皆さまには御礼申し上げますとともに、その結果について下記のとおりまとめましたので、ご報告いたします。

（1）アンケート実施期間

平成29年6月16日（金）～平成29年6月30日（金）

（2）アンケート回収状況

対象者数 1,170名
回答者数 827名
回答率 70%

（3）回答者属性

- ・性別 男性 400名、女性 427名
- ・年代別

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
2人	60人	169人	227人	179人	149人	36人
0.2%	7.3%	20.4%	27.4%	21.6%	18%	4.4%

・地域別

桑名・員弁地域	四日市地域	鈴鹿・亀山地域	津地域	松阪地域
101人	184人	118人	130人	101人
12.2%	22.2%	14.3%	15.7%	12.2%

南勢志摩地域	伊賀地域	尾鷲地域	熊野地域
91人	74人	13人	14人
11%	8.9%	1.6%	1.7%

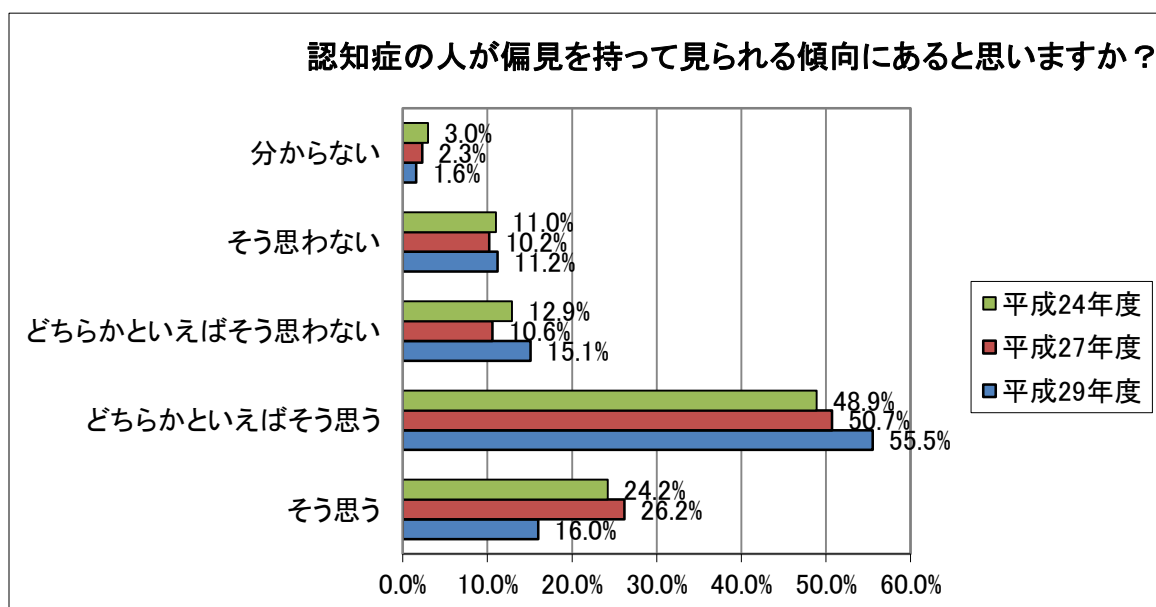
（4）アンケート結果

Q1について

認知症が病気（病気により引き起こされる症状）だと知っているかどうかお聞きしたところ、「よく知っている」、「知っている」と答えた方が92.1%と多数を占め、「あまり知らない」「全く知らない」が7.9%という結果になりました。

Q 2について

認知症の人が「認知症になると、なにもわからなくなる」などといった偏見を持ってみられる傾向にあるかどうかお聞きしたところ「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と答えた方が 71.5%で、「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」と答えた方の 26.3%を大きく上回りました。「分からない」と答えた方は 1.6%でした。平成27年度のアンケートでは「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と答えた方が 76.9%、「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」と答えた方が 20.8%でしたので、徐々に認知症に対する偏見は解消されてきていますが、依然として多くの方が認知症に対する偏見があると考えていることがわかりました。県では、今後も認知症を正しく理解して、認知症の人やその家族を温かく見守ってもらうための「認知症サポーター養成講座」を実施するなど、認知症に対する偏見をなくすための活動に取り組んでいきます。



Q 3について

ご自身や家族について、認知症に対する不安や心配があるかどうかお聞きしたところ、「ある」、「どちらかといえばある」と答えた方は 88.5%、「ない」「どちらかといえばない」と答えた方が 8.4%、「分からない」と答えた方が 3%となりました。

平成27年度のアンケートでも 90%の方が「ある」「どちらかといえばある」と回答しており、認知症に対する高い不安感が明らかになっています。

Q 4について

予防できる認知症があることについてご存知かどうかお聞きしたところ、「よく知っている」、「少し知っている」と答えた方が 51.4%で、「全く知らな

い」、「聞いたことはあるがあまり知らない」と答えた方が 48.6%となりました。

平成 27 年度のアンケートの結果では、「よく知っている」、「少し知っている」と答えた方が 50.8%で、「全く知らない」、「聞いたことはあるがあまり知らない」と答えた方は 49.2%でしたので、大きな変化はありませんでした。

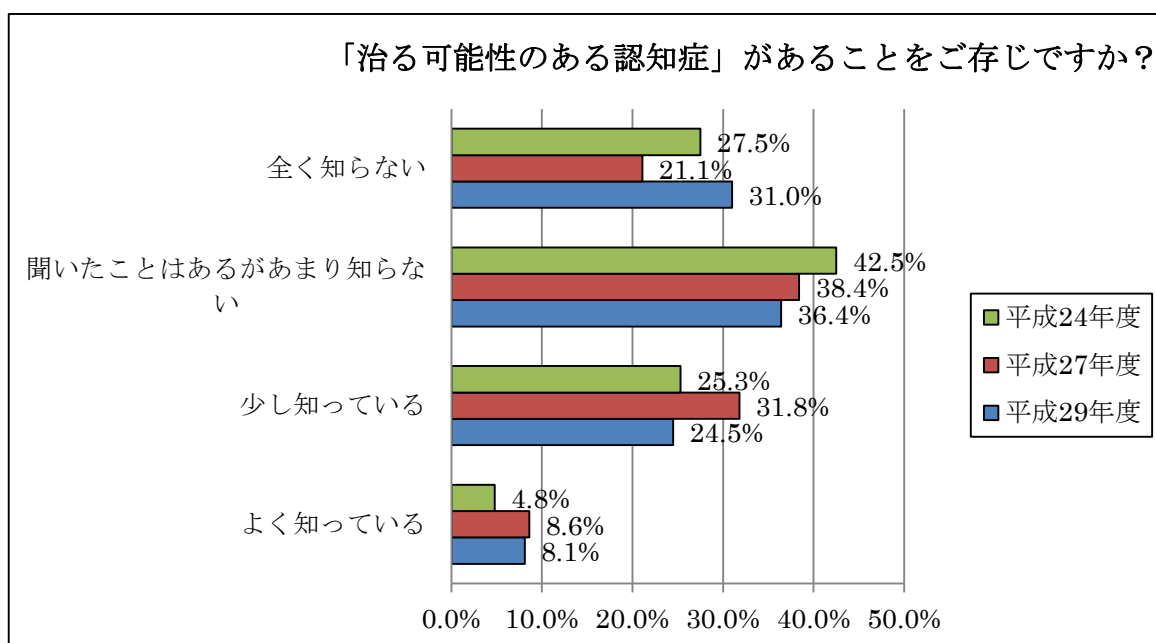
Q 5について

治る認知症があることについてご存知かどうかお聞きしたところ、「よく知っている」、「少し知っている」と答えた方が 32.6%で、「全く知らない」、「聞いたことはあるがあまり知らない」と答えた方は 67.4%となりました。

平成 27 年度のアンケート結果では、「よく知っている」、「ある程度知っている」と答えた方は 40.4%、「全く知らない」、「聞いたことはあるがあまり知らない」と答えた方は 59.5%でした。

平成 27 年度のアンケートでは治る認知症の例は示していませんでしたが、今回は設問の中で治る認知症として「慢性硬膜化血腫」「正常圧水頭症」「甲状腺ホルモン異常」といった例を提示したため、例に挙げられた病名をご存じない方が「全く知らない」等の回答を選択されたものと考えられます。

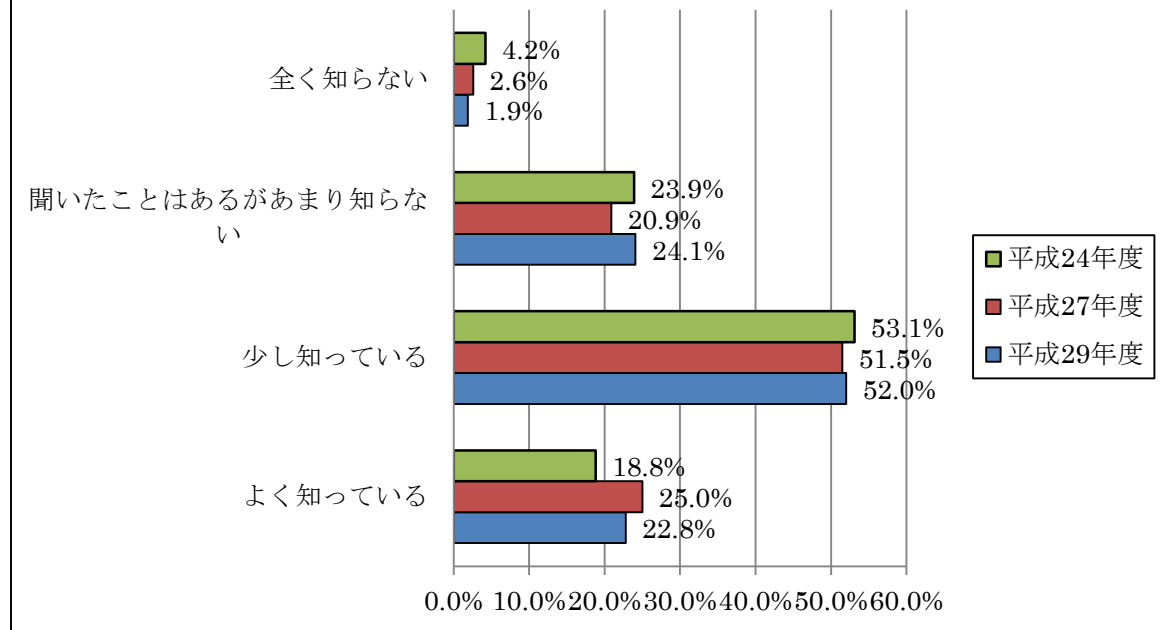
県では、引き続き「治る可能性のある認知症」があること、認知症の早期発見・早期治療の重要性について周知を図っていきます。



Q 6について

65 歳未満で発症する若年性認知症についてご存知かどうかお聞きしたところ、「よく知っている」、「少し知っている」と答えた方が 74.8%で、「全く知らない」、「聞いたことはあるがあまり知らない」と答えた方は 26%でした。

6 5歳未満で発症する若年性認知症のことをご存じですか？



Q7について

「三重県認知症コールセンター」についてご存知かどうかお聞きしたところ、「よく知っている」、「少し知っている」と答えた方が6.2%で、「全く知らない」、「聞いたことはあるがあまり知らない」と答えた方が93.9%を大きく下回り、ほとんど知られていないことが分かりました。

平成27年度のアンケートでも、「よく知っている」、「少し知っている」4.3%で、「全く知らない」、「聞いたことはあるがあまり知らない」95.6%であったため、引き続き、周知を図る必要があることがわかりました。

三重県認知症コールセンターでは、認知症に関する様々な悩みや相談を、認知症の介護経験者等のコールセンタースタッフがお聴きしています。必要と判断した場合は、医療機関の受診や介護サービスの利用のアドバイスをします。

電話番号 059-235-4165 (よいろうご)

開設時間 月～土 10時00分～18時00分

※水曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)は除く

認知症の介護に悩むご家族の方、認知症の方本人等が気軽に相談していただけるよう、県はコールセンターの周知を図っていきます。

Q8について

認知症の専門医療機関である「認知症疾患医療センター」についてご存知かどうかお聞きしたところ、「よく知っている」、「少し知っている」と答えた方が8.2%で、「全く知らない」、「聞いたことはあるがあまり知らない」91.8%を

大きく下回り、ほとんど知られていないという結果になりました。

認知症疾患医療センターは、認知症の専門医療の提供、専門医療相談を行います。また、地域の医療・介護関係者への研修を行うことなどにより、地域における医療と介護の連携機能を果たします。

県は、現在認知症疾患医療センターを5箇所指定しています。詳しくは三重県ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/CHOJUS/HP/46925022906.htm>

Q9について

認知症の人やその家族、介護等の専門職、地域の人々の集う場である「認知症カフェ」についてご存じかどうかお聞きしたところ、「知っている」「少し知っている」と答えた方が8.2%で、「全く知らない」、「聞いたことはあるがあまり知らない」91.8%を大きく下回り、ほとんど知られていないという結果になりました。

「認知症カフェ」は認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う場として設置が推進されています。厚生労働省の「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」には2020（平成32）年度までに全ての市町村において認知症カフェの取組を普及させるという目標が定められており、県でもさらに認知症カフェについての周知や設置支援を行っていきます。

Q10について

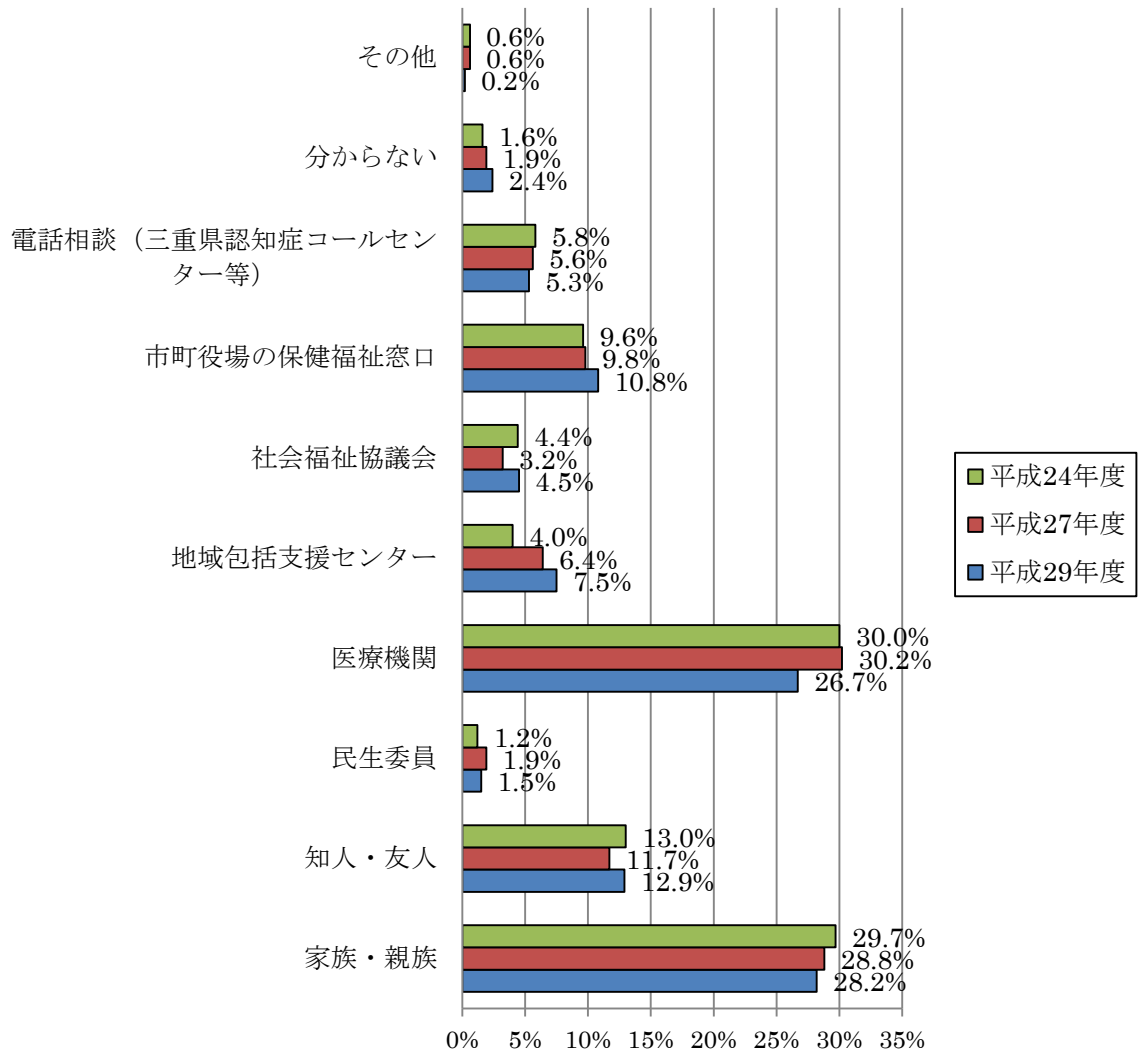
認知症に関する相談先について複数回答でお聞きしたところ、上位回答には「家族・親族」（28.2%）、次いで「医療機関」（26.7%）、「知人・友人」（12.9%）が挙がりました。

平成27年度のアンケート結果の上位回答は、「医療機関」（30.2%）、次いで、「家族又は親族」（28.8%）、「知人・友人」（11.7%）であったため、ほとんど変化は見られませんでした。

相談窓口等はこちらのホームページでご案内しています。ご参照ください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/CHOJUS/HP/44540022885.htm>

自身や家族等について認知症に関する不安を持ったとき、相談したいと考えるのは、誰（どこ）ですか？（複数回答、回答総数2,220件）



Q11について

「認知症サポーター」（認知症に関する学習会を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者）についてご存知かどうかお聞きしたところ、「よく知っている」、「少し知っている」と答えた方が 18.8%、「聞いたことはあるがあまり知らない」と答えた方は 27.3%、「全く知らない」と答えた方は 53.8% でした。

平成 27 年度のアンケートの結果では、「よく知っている」、「少し知っている」と答えた方は 15.9%、「聞いたことはあるがあまり知らない」と答えた方は 22.5%、「全く知らない」と答えた方は 61.6% でしたので、若干認知度が上昇しています。県では、引き続き認知症サポーターについての周知を進めていきます。

Q 1 2について

「認知症サポーター養成講座」への参加意欲についてお聞きしたところ、「すでに受講した」と答えた方が 4.6%、「受講したい」、「どちらかといえば受講したい」と答えた方が 41.1%、「受講したくない」、「どちらかといえば受講したくない」と答えた方は 24.3%でした。

平成 27 年度のアンケート結果では、「すでに受講した」と答えた方が 4.5%、「受講したい」、「どちらかといえば受講したい」と答えた方は 43.8%、「受講したくない」、「どちらかといえば受講したくない」と答えた方は 24.1%で、あまり大きな変化は見られませんでした。

Q 1 3について

認知症対策に取り組む企業への印象についてお聞きしたところ、「良い印象を持つ」、「どちらかといえば良い印象を持つ」と答えた方が 83.6%、「どちらかという悪い印象を持つ」、「悪い印象を持つ」、「特に感じない」、「わからない」、「その他」と答えた 16.5%を大きく上回りました。

県では、高齢者の日常生活に直結する生活関連企業等（スーパー、金融機関等）の従業員を対象に、「認知症サポーター養成講座」を実施しています。地域で働く人々の理解が、認知症の方が地域で暮らしていく大きな支えになります。

こうした取り組みを通じ、認知症の方やその家族等を見守り、支える力を地域で高め、「認知症になっても安心して暮らし続けられる地域づくり」を進めたいと考えています。

Q 1 4について

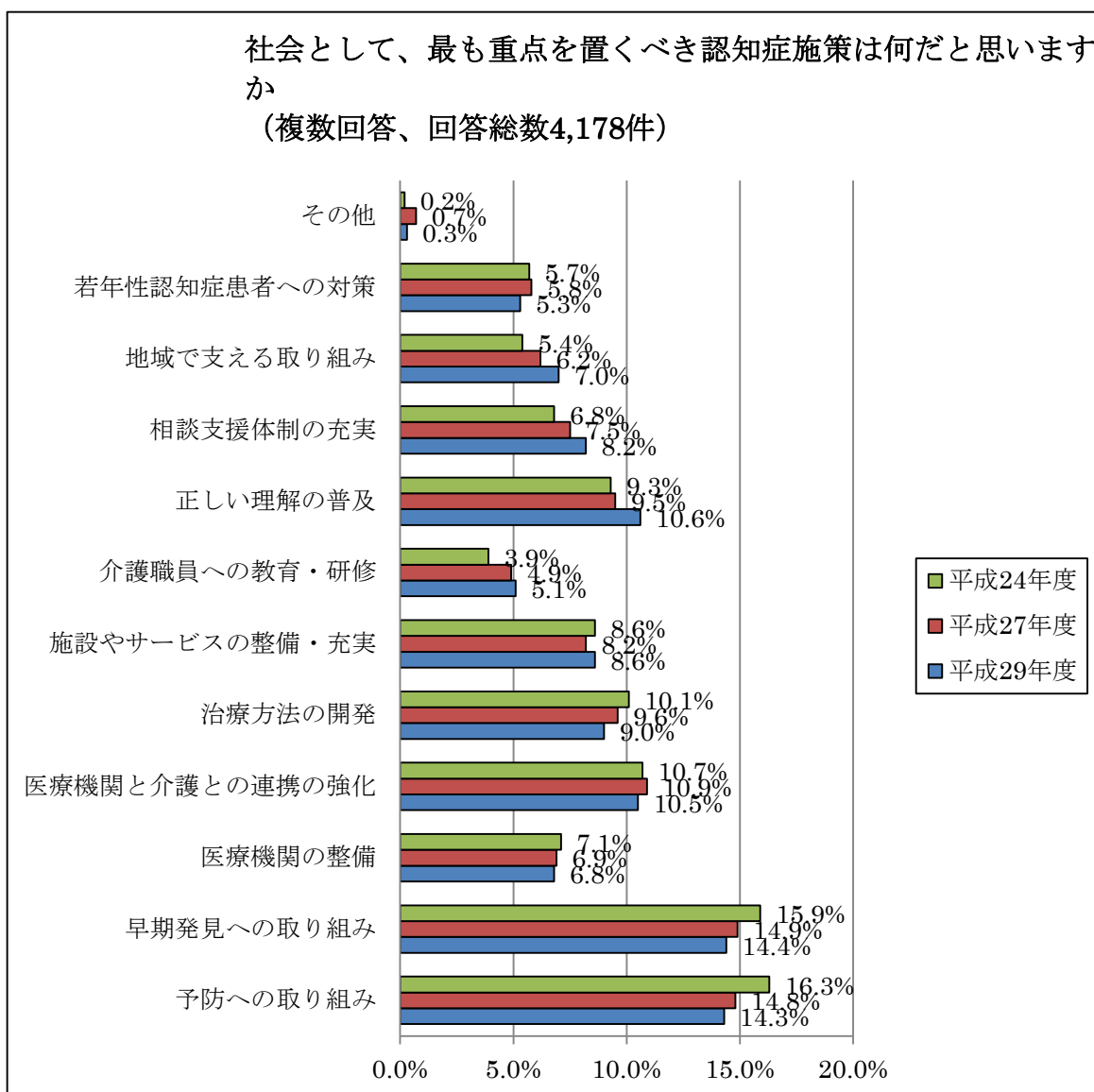
平成 2 9 年 3 月の改正道路交通法施行により、運転免許更新時の認知機能検査の受講に加えて、認知機能が低下したときに起こしやすい違反行為をした時は、記憶力や判断力の状況を測定する「臨時認知機能検査」を受けることが義務付けられたことについてご存知かどうかお聞きしたところ、「よく知っている」、「少し知っている」と答えた方が 61.8%で、「全く知らない」、「聞いたことはあるがあまり知らない」と答えた方の 38.2%を上回り、多くの方が関心を持たれていることがわかりました。

Q 1 5について

最も重点を置くべき認知症施策についてお聞きしたところ、上位回答は「早期発見への取り組み」（14.4%）、「予防への取り組み」（14.3%）、「正しい理解の普及」（10.6%）「医療機関と介護との連携の強化」（10.5%）、でした。

平成 27 年度のアンケート結果では、上位回答は、「早期発見への取り組み」（14.9%）、「予防への取り組み」（14.8%）、「医療機関と介護との連携の強化」

(10.9%)、「治療方法の開発」(9.6%) でした。



まとめ

今回のアンケートでは、県が取り組んでいる認知症対策が、平成24年度および平成27年度に実施したアンケート結果と比較し、県民の皆さまにどこまで浸透しているか、また認知症や認知症対策への理解の状況をお聞きしました。

今後、75歳以上の高齢者の増加に伴い、認知症の方もさらに増加することが予想されます。アンケートの結果からも分かるとおり、皆さまの認知症に対する不安は大きいものがあります。三重県では、本人や家族、かかりつけ医等の気づきを早期発見・早期治療につなげることを出発点として、的確かつ包括的な療養方針を策定し、医療と介護の密接な連携の下に適切なサービスを提供する体制の整備を進めます。

また、市町の介護予防の取り組みを支援するとともに、認知症サポーター養

成講座の普及に努め、地域で認知症の人やその家族を見守る取り組み拡大を図り、認知症に対する正しい知識の普及や、相談支援体制の充実に取り組んでいきます。

そして、これらの取り組みを、皆さまがご活用いただけるよう、情報提供に努めていきます。

今後とも、高齢者施策の推進にご協力をいただきますようお願い申し上げます。